

新興国レポート

アジア各国の外貨準備 増加

自国通貨高抑制のため為替介入も活発に

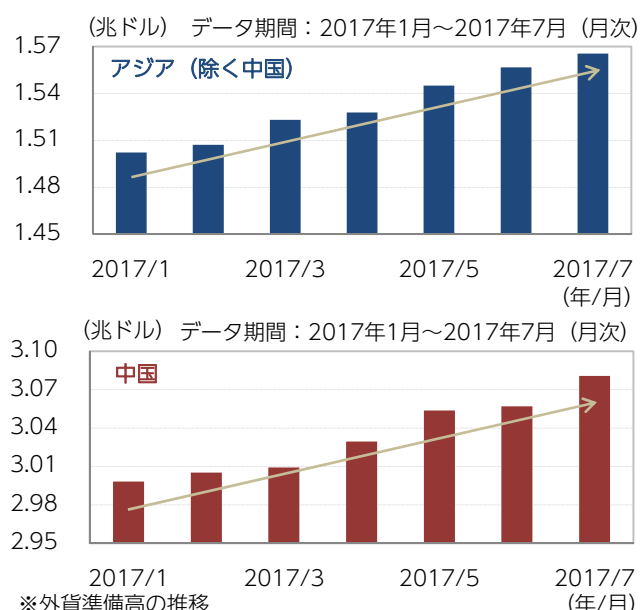
- ▶ アジア各国の政府や中央銀行が保有する外貨準備が一段と積み上がりつつある。経済発展に伴う資本流入の増加がけん引役に。
- ▶ 資本流入により対外支払い能力が向上するも、緩和を続けてきた米欧金融政策が引き締め方向に動いた場合など、通貨の急落懸念も残る。

アジア各国の政府や中央銀行が保有する外貨準備が一段と積み上がっています（図表1）。今後の成長期待から多額の投資マネーがアジア各国に流入しており、自国通貨の急激な上昇を抑えるためのドル買いの為替介入も活発となっているようです。アジア各国の外貨準備の増加は、域内経済・金融の安定により、通貨危機などへの対応力が高まっていることを反映する一方で、米欧が金融引き締めに動いた場合などに混乱に見舞われるというリスクも懸念されます。

世界最大の外貨準備保有国である中国は2017年7月に3兆800億ドルと6ヵ月連続で増加しました（図表1）。昨年末頃まで下落していた人民元相場が落ち着きを取り戻し、外貨準備を取り崩してドル売り・人民元買いの介入が必要なくなったためとみられます。アジア諸国全般において外貨準備の伸びが大きいのは、経済発展に伴い活発に各国に資本が流入しているためと考えられます。資本流入により対外的な支払能力が向上し通貨も安定する一方で、巨額のマネー流入が通貨価値を押し上げるため、各国とも介入により通貨の上昇圧力を抑え込まざるを得なくなっているようです（図表2）。

通貨の急落懸念には注意が必要であると考えます。アジア域内は経済発展により大型のインフラ投資が活発であることから、海外より資金が集まるものの、返済リスクが意識されていることから比較的短期の融資が多いというのが現状です。仮に、一度資金流出が始まった場合、資金調達困難に陥るケースが懸念されます。また、これまで異例の緩和を続けてきた米欧金融政策が本格的に引き締め方向に動いた場合も、大量に資金流出することが予想されます。

図表1：外貨準備は6ヵ月連続で増加



図表2：資本流入により通貨上昇を抑制する動きも

